

# 高等学校「国語総合」学習指導案

令和元年〇月〇日〇限  
埼玉県立越谷北高等学校  
第1学年〇組〇名  
授業者 小野寺 香奈

1 科目 国語総合 「高等学校 改訂版 新訂国語総合 古典編」第一学習社

## 2 単元名・教材名

単元名：物語『竹取物語』「かぐや姫のおひたち」、『伊勢物語』「芥川」

## 3 単元設定の意図

### (1) 単元観

本単元は国語総合の古典分野を対象としたものであり、「C 読むこと」と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の指導領域に即して学習目標と評価規準を設定したものである。本単元を通して、「登場人物や表現に着目し、物語作品を読解する」能力を養うことを目的とする。

この単元は、これまで学んできた用言の活用などの古典文法を基に本格的な読解に取り組む最初の単元である。授業で扱う事項が品詞分解に偏らないよう、内容面にも焦点を当てて読解を進めていく。具体的には、『竹取物語』におけるかぐや姫の特殊な設定や当時の通過儀礼、昔話に残る伝承の型、『伊勢物語』における男女の物語や鬼が登場する怪異譚を本文から読み取らせ、生徒が興味・関心を持って読み進めることができるよう工夫する。

また、文脈に即した古語の意味を捉えることや助動詞の比較から各助動詞が付与する意味を想像させることなども取り入れ、これまでの学習から発展させていく。本文の丁寧な読解を馴染みのある物語作品を通して実践することで、生徒が古典を読解する能力を高められるようにする。

### (2) 教材観

以下では、本時案にて扱う『竹取物語』に焦点を当てて述べていく。『竹取物語』は平安時代初期の伝奇物語であり、後世の物語文学の先駆けとなった作品である。絵本や映画の形で残っている作品である点や、小・中学校の国語の授業における暗唱などから生徒に馴染みのある教材であると予想される。

今回扱う「かぐや姫のおひたち」は、作品冒頭の章段である。「けうらなること世になく」容姿端麗なかぐや姫と、かぐや姫を「いつき養ふ」翁という登場人物を中心に物語が展開する。前半では翁とかぐや姫の出会いが、後半ではかぐや姫の成長と翁が豊かになっていく様子が描かれている。小さなかぐや姫が竹の中に座っていたり三か月で成人を迎えたりする点、翁が竹筒の中に入った黄金を見つけることで豊かになっていく点などは、物語作品ならではの特殊な設定となっている。これらの設定を、本文の裏付けに基づいて読解することが可能な教材である。

### (3) 生徒観

1年〇組は活発なクラスであり、授業中の発言も多い。また、ペアワークでの話し合いにも積極的に取り組んでいる。しかし、これまでペアで話し合った内容は用言の活用や品詞分解が中心であった。そのため、本文の内容読解や文章全体の大意の把握には慣れていないと考えられる。本教材においては生徒の既

有知識を活用させるとともに、段落ごとに内容を整理しながら読解させ、今後の学習に繋げていく。

#### 4 単元の目標と具体的評価規準

- (1) 『竹取物語』と『伊勢物語』の文化的背景や話型を捉えながら作品を読解しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 品詞分解や現代語訳、文脈に即した古語の意味の把握に基づき、登場人物の設定や心情を読み取る。  
(読む能力) (「C読むこと」の(1)のウ)
- (3) 現存最古の伝奇物語『竹取物語』と歌物語『伊勢物語』に関わる文学史の流れをとらえる。  
(知識・理解) (〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)のア(ア))

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・文化的背景や話型をとらえながら作品を読解しようとしている。	・文法事項や表現に基づき、各登場人物の設定や心情を読み取っている。	・両作品が執筆された時代背景や古典作品における位置づけを理解している。

#### 5 単元の指導と評価の計画 (全3時間扱い)

時	主な学習活動	具体的な評価規準と評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標を確認し、授業の見通しを知る。</li> <li>○『竹取物語』『伊勢物語』のイメージや内容について知っていることをクラス全体で共有する。</li> <li>○『竹取物語』『伊勢物語』の成立から『源氏物語』までの物語作品の流れを学ぶ。</li> <li>・教材のあらすじを確認する。</li> <li>・範読を聞き、全文を音読する。</li> <li>○文法や表現を確認しながら本文を読解する。</li> </ul>	<p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『竹取物語』『伊勢物語』のあらすじや登場人物・イメージについて共有しようとしている。 (関心・意欲・態度)</li> <li>・『竹取物語』『伊勢物語』の成立や物語作品の特徴・系譜をとらえている。 (知識・理解)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「行動の観察」</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文法的な裏付けを取るとともに、文脈に即した意味を選択しながら読解している。 (読む能力)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「行動の観察」</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を音読し、前時の復習をする。</li> <li>○登場人物の設定を読み取る。</li> <li>○品詞分解と現代語訳・助動詞の比較・文脈把握を行う。</li> <li>○当時の文化を本文中の記述に基づいて知る。</li> </ul>	<p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中の表現に基づき、各登場人物の設定を読み取っている。 (読む能力)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「行動の観察」</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代語訳から助動詞を比較したり、主語や古語に基づき文脈を読み取ったりしている。 (読む能力)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「記述の点検」</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の文化について把握している。 (知識・理解)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「行動の観察」</p>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全文を音読し、前時の復習をする。</li> <li>○文法や表現を確認しながら本文を読解し、物語の構成や展開を整理する。</li> <li>○本章段におけるかぐや姫の設定を本文から指摘し、第1時で確認したイメージや内容と比較する。</li> </ul>	<p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形式段落ごとに内容を整理している。(読む能力)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「記述の点検」</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1時で共有したイメージと本単元で読み取った内容を比較し、読解にいかそうとしている。 (関心・意欲・態度／知識・理解)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b>「行動の観察」</p>
---	--	---

## 6 本時の指導と評価の計画 (3/3時間目)

### (1) 本時の目標

- ・通過儀礼などの文化的背景や、伝承という話型をとらえて作品を読解しようとする。(関心・意欲・態度)
- ・本文の構成・展開を整理するとともに、本文の精読に基づいて登場人物の設定や心情を読解する。  
(読む能力)
- ・登場人物の特徴や時代背景をとらえ、文学史の理解にいかす。  
(知識・理解)

### (2) 本時の展開

段階時間 (分)	主な学習活動	○指導上の留意点 【評価の実際】
導入 (5)	①本時の目標を確認する。 ②ペアで全文を音読する。	○一人一回ずつ読むよう指示する。
展開 (42)	③以下の点に着目して第3段落の読解内容と文法事項を説明し合い、復習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">             助動詞：「ぬ」「つ」「さす」              助 詞：接続助詞「ば」                        終助詞「てしがな」              古 語：久し・かしこし・遊ぶ・                        貴なり・いやし・音・惑ふ              主語・現代語訳           </div> ④現代語訳に基づいて助動詞の比較を行い、当時と現在における時間の捉え方の違いに気づく。  ⑤「かぐや姫のおひたち」の章段の展開を、登場人物の設定や心情に着目して形式段落ごとに整理して共有する。	○文法書を使用し、意味や活用・接続を確認させる。また、脚注や現代語訳・辞書を参考に古語と現代語を比較させる。 <b>【評価規準】</b> ・文法的な分析を行うとともに、文脈に即した意味や主語を選択しながら読解している。 (読む能力) <b>【評価方法】</b> 「行動の観察」  ○同様の意味を持つ助動詞(完了の「ぬ」「つ」)を本文に基づき比較させる。 <b>【評価規準】</b> ・現代語訳と本文、助動詞の用例の比較を通して、助動詞が持つ意味を捉えている。 (読む能力) <b>【評価方法】</b> 「記述の点検」 <b>【評価規準】</b> ・形式段落ごとに、登場人物の行動や心情に着目して内容をまとめている。(読む能力) <b>【評価方法】</b> 「記述の点検」

<p>まとめ (3)</p>	<p>⑥本章段におけるかぐや姫の設定を本文から指摘し、第1時で確認したイメージや内容と比較する。</p> <p>⑦次時の予定を知る。</p>	<p>○生徒が最初に持っていたイメージを否定しないようにしながら、本文中の内容と比較させる。</p> <p><b>【評価規準】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージと比較しながら登場人物の設定や時代背景を捉えたり、本文の精読をしたりしようとしている。</li> </ul> <p>(関心・意欲・態度／知識・理解)</p> <p><b>【評価方法】</b>「行動の観察」</p> <p>○次時から『伊勢物語』の学習に入ることを連絡する。</p>
--------------------	--	---